

# スクランブル

徳島県 由岐町商工会

## アワビの貝殻はいかが？

レシピも公開、消費拡大めざす

由岐町商工会（本田伍平会長）では、町内の民宿などでゴミとして廃棄されてきたアワビの貝殻を、由岐駅「ぼっぼマリン」で販売することにした。

従来、アワビの貝殻はボタンの材料や装飾品などに使われてきたが、近年は需要がなくなってきたことから、民芸品や飾りなどへの再利用をめざす。

貝殻は1週間ほど消毒液に漬け、商工会職員が1枚ずつニス塗りを美しく仕上げる。1個100円で販売し、収益はアワビの稚貝放流の経費や観光事業に当てる考え。

京都府 和束町商工会

## 万博で「和束茶」を楽しむ

ロシアのナショナルデーでおもてなし

6月17日、愛知万博ロシア・ナショナルデーの式典に参加するために来日した同国政府関係者、出演する民族合唱団員ら80人を、町の日本茶インストラクター・松石三重子さんと商工会事務局長・渡辺弘史さんらが特産の「和束茶」で接待した。



昨年5月、愛知県立大非常勤講師ミハイロハ・スベトラーナさんが茶摘み体験で町を訪れた際、渡辺さんと出会ったことがきっかけとなり、渡辺さん夫婦が訪ロするなど家族的な交流に発展し、万博ロシア館に関わっているスベトラーナさんから、式典前にお茶によるもてなしを依頼されたもの。

煎茶や和菓子をつるまい、おいしいお茶の入れ方も説明することで、渡辺さんらは「和束茶を外国の人にも知ってもらいたい」「お茶を通じて日本への理解が深まれば」と話していた。

愛媛県 野村町商工会

## 土曜夜市に手作り行灯

小学生が夏をテーマに描く

小学1～2年生85人の絵を使った手作り行灯が、7月30日まで商店街で開催された土曜夜市を彩り、夜市を盛り上げるのにひと役買った。

商工会が企画したもので、従来は電球を使ったちょうちんを使っていたが、昨年、野村保育園園児の絵を使った手作りの行灯が好評を博したことから、今年は野村小学校に依頼した。



夏をテーマにしたスイカやクワガタムシ、海水浴などの絵は電球の光を透かすよう障子紙に描き、商工会会員がラミネート加工して行灯に張った。

今年の土曜夜市は7月2日から開かれる予定だったが、雨で2回延期され、16日から実施された。手作り行灯は幻想的で楽しい雰囲気をかもし出していた。

また、7月27日には、「第1回アワビレシピコンテスト」優秀作品の「試食会」を行った。町の特産品であるアワビの消費拡大につなげようと、4～5月に県内でアワビ料理のレシピを公募し、6月に審査して選ばれた4作品を、商工会女性部部員が公民館調理室でレシピに従って調理したもの。



アワビをガーリックバターでこんがり焼く「アワビの香草バター焼き」、アワビをたっぷり使ったかき揚げを載せた「ぜいたくアワビ丼」、アワビとトマトをあえた爽やかな「アワビのカルパッチョ」、マッシュポテトとアワビをオーブンで焼き上げる「アワビのコキユ」は、それぞれすばらしいできばえで、参加者からは「アワビ料理のレパートリーが広がった。どれもすごくおいしい」と賞賛の声があがった。

商工会は「レシピはHPで公開し、貝殻は町をPRする土産物として、アワビの消費拡大につながれば」と期待している。

福島県 東村商工会

## 50トンもの不法投棄ごみ

村内5カ所でごみの撤去活動

6月、東村商工会の「不法投棄廃棄バスターズ」と県の「うつくしま 福島 不法投棄廃棄物撤去エコトピア」の両事業が協力して、村内に捨てられた不法投棄物の撤去作業を行った。



約130人が参加して村内5カ所で汗を流した。山林から見つけたトタンやプラスチック製のごみは、重機を用いて掘り起こすほどで、トラックで運搬した量は50トンにも及び、参加者を驚かせた。

宮崎県 北方町商工会

## チラシと菓子袋でPR

もっと公共交通の利用を！

北方町商工会（田邊代生会長）は、6月18日高千穂鉄道（TR）の列車内やJR延岡駅、宮崎交通延岡営業所などで菓子や列車時刻表、宮交バスカートのチラシなどが詰まった袋を乗降客らに配り、公共交通機関をもっと利用してもらおうと協力を呼びかけた。



JR延岡駅で公共交通機関の利用を呼びかけた北方町商工会会員

同商工会では「商工会の日」にちなんで、毎年、交通安全街頭運動などに取り組んでいるが、今年は青年、女性部を中心に約10人が参加。同町のTR川水流駅から延岡駅まで車内の客に菓子袋を手渡し、「また利用してください」と声をかけた。

同商工会女性部長の志賀朋子さんは「今まで川水流駅だけで呼びかけてきたが、自分たちが乗らずに活動するのはおかしい、と企画した。地域住民の足としてTRも宮交バスも長く続けてもらいたい」と意気こんでいた。

## 岡山県 岡山県商工会連合会

### 商工会がまちとあなたをバックアップ!!

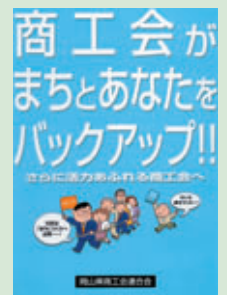
#### 合併後の商工会PRパンフを全会員へ配布

岡山県商工会連合会（西本和馬会長）では、新しい経営支援体制と地域づくり体制を構築するため、商工会組織の再編について平成12年度から検討を開始し、「商工会合併推進計画」（平成14年度策定）を遂行している。

県下の商工会では、この計画に沿って、それまでの82商工会が経済圏域や行政合併などを考慮し、3年間で合併による組織再編を図り、推進計画の最終期限である平成18年4月には20商工会となる見込み。

県連では、合併商工会の3つの機能（経営支援機能・まちづくり機能・自主運営機能）や本部支所の役割など、これからの商工会をよりイメージしやすく、PRも兼ねたパンフレットを作成し、県下の全会員へ配布している。

特に、合併後においても旧商工会単位の地区が、より一層活発な活動が行えるよう「地区運営会議」を設け、旧商工会地区の活性化と商工会全体を盛り上げていくことを強く呼びかけている。



## 山梨県 身延町商工会

### 創作民話の朗読

#### 「瓜生喬語り劇場」

6月19日、身延町商工会と語り部の会ネットワークは、町総合文化会館で、観光振興セミナー「瓜生喬語り劇場」を主催した。

劇作家であり、同ネットワークの会長も務める瓜生さんが、創作民話を朗読した。

第2次世界大戦中の祖母の体験をもとに創作した「千の風」、母親との日々を振り返った「母さんの四季・日本の四季」、ホテルの里として長野県辰野町をテーマにした「蛭」と、心温まる話に、会場に詰めかけた約150人の聴衆が瓜生さん独特の語り口に酔いしれた。



## 広島県 上下町商工会

### 大学生が商店街活性化に協力

#### にぎわい創出検討事業で聞き取り調査

このほど、福山大学経済学部的小林正和講師・学生らが、空き店舗が目立つようになった町内商店街の活性化に向け、住民など400人に対する聞き取り調査を行った。

今春、商工会を中心にスタートした「商店街にぎわい創出検討事業」の1つとして取り組まれたもので、「商店街に求められるサービスや施設は?」「将来はどんなまちになったらいいですか?」など10項目について、商店主や観光客の声を集め、問題点の洗い出しや新たなまちづくりの方向性を探っていく。

「まず地元民に利用してもらうことが大事」「道の駅のような特産品販売施設があれば人通りが増える」「これまでのまちづくり活動はボランティア。実益につなげなければ」といった回答は学生たちの意見も交えて年内にまとめ、来年2月をめどに策定する「基本構想」に反映していく予定だ。



## 福井県 河野商工会

### 梅、鯖へしこの食べ方を紹介

#### “手引書”を作製、イベントで配布

河野商工会は、地域の特産品の活用方法を知ってもらい、販路拡大を目指して、地元特産の「梅」と「鯖へしこ」の食べ方を紹介するパンフレットを作製した。

日本海に面した河野地区の河野梅園では毎年、梅もぎ体験や手作りの梅干し漬体験を行っている。河野の梅を使ったシャーベット、梅スープめんの作り方、梅の効用や加工品、うめまつりの紹介コーナーなどもあるこのパンフレットは、6月



18日に開催されたうめまつりなどのイベント会場で来場者に配布し、広くPRした。

鯖へしこは、サバをぬか漬けにしたもので、漁業の盛んな河野で昔から食卓に上がっていた郷土食。最近では「食べ方がわからない」との声も多く、サバのさばき方を写真入りでわかりやすく説明。また、へしこを使った茶漬けやサラダ、クリームコロッケのレシピなど、ふんだんに活用方法を紹介している。

「パンフレットというより、“手引書”のようなイメージです。新町誕生を機に、より特産をPRしていきたい」と商工会では話している。

## 青森県 田舎館村商工会

### 力作堂々! 「田んぼアート」

#### むらおこしイベント、今年も見頃

田舎館村商工会・田舎館村農協（現津軽みなみ農協）で構成する田舎館村むらおこし推進協議会は、1993年から約1万5,000㎡の特設田に稲で描く「田んぼアート」を製作して多くの見学者を集めているが、今年は高難度の浮世絵を再現した。

当初は地元の名山・岩木山を図案化し、2003年にはレオナルド・ダ・ビンチの「モナリザ」に取り組んだところ、高さ22mの展望台からの眺めを考慮しなかったため、「下半身デブのモナリザ」に見えてしまい、痛烈に酷評された。

そこで、2004年には発奮して、手間がかかる棟方志功の版画2作品に挑戦、村内の山本篤さんに遠近法を利用した原画

を描いてもらい、43都道府県から2万3,000人が訪れる盛況となった。

今年はさらに意気込み、「2000年の稲作文化を誇る村にふさわしいものを作る」と、古代米の「紫稲」「黄稲」「つがるロマン」の3種類の稲で、東洲斎写楽の「二代大谷鬼次の奴江戸兵衛」、喜多川歌麿「歌撰恋之部・深く忍恋」の再現に挑戦した。

5月29日の「田植えツアー」には約700人が参加。田んぼアートの見頃は8月中旬頃までで、9月25日の「稲刈りツアー」で今年のアートは終了する。財政的には苦しいが、「来年は何を描くの?」と聞くファンが多いので、今後もがんばって続けていく予定だ。

